

平成20年12月1日

生駒市議会議長 井上充生 殿

都市建設委員会委員長 福中眞美

委員会調査報告書

当委員会で調査した事件の調査結果について、生駒市議会会議規則第107条の規定により、下記のとおり報告します。

記

- 1 派遣期間 平成20年11月25日(火)
- 2 派遣場所 大阪府箕面市
- 3 事 件 (1) 緑の保全について
- 4 派遣委員 福中眞美、西口広信、浜田佳資、角田晃一、八田隆弘
- 5 欠席委員 酒井 隆
- 6 概 要 別紙のとおり

別紙

<p>視察先</p>	<p>大阪府箕面市</p>
<p>施策等の名称</p>	<p>1 市民参加の施策について (1) アダプトパーク・プログラム制度 (2) NPO法人「みのお山麓保全委員会」との連携・協働について (3) 今後の課題と事業の拡大等について 2 市の取組について (1) 花とみどりあふれるまちづくり推進事業 (2) 自然緑地等指定制度</p>
<p>視察の目的</p>	<p>箕面市では、先進的な取組として、ボランティアグループが道路や公園に花苗などを植栽し、清掃などの日常管理を行うアダプトパーク・プログラム制度が実施されている。また、みどりの基本計画の実現に向けた取組や自然緑地等指定制度など、本市のこれからの施策の展望の参考とする。また、NPO法人の活動やボランティア団体の取りまとめ方など、運営等について調査を行い、本市のボランティア団体の育成・支援等について、課題の抽出等を行う。</p>
<p>施策等の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アダプト制度…市が里親（市民、事業者等）と協働して、公共空間の美化・利活用を図る。月2回以上活動することを条件にボランティア団体からの申請に基づき登録し、花苗の配布や清掃道具の貸出を行う。現在、130団体が登録され、141ヶ所で活動されている。 ・みどりの基本計画…都市緑地法に基づき市町村が策定する計画。箕面市は平成16年に策定。緑とオープンスペースの全てに関する総合的な計画。2002年策定、短期見直しを2010年、長期見直しを2025年。特に、身近なみどりとして公のみどり（学校、公共施設）は、アダプト制度を活用した市民協働による維持管理を推進されている。今後は、民のみどり（住宅地などの私有地のみどり）を支える仕組みづくりを実施されていく。 ・自然緑地等指定制度…対象区域の同意率46.9%、74ha ・保護樹木…所有者と協力して市街化調整区域内の自然緑地及び市街地の由緒ある樹木・樹林を保護されている。保護樹木63本、保護樹林14ヶ所 ・NPO法人みのお山麓保全委員会…会員20名、理事10名、常勤1名。自然観察会、パトロール隊、ネイチャールーム、森の音楽会などイベントの開催やボランティア団体の支援・とりまとめ、人材育成（講座：森の学校）を主な活動とされている。イベントの開催に当たって、市と協

	<p>力し、多くの参加者を募っている。内部組織の強化と運営の継続が課題。</p>
考察	<p>里山にかかわる“人材”を育てるために「みのお森の学校」を毎年開催している。運営は、市民ボランティアによる「森の学校実行委員会」が行い、修了生は「みのお森の学校同窓会」を作り、交流、活動をされています。終了生の7割が活動に参加していること、NPOが運営主体になり市は活動に協力するというやり方は本市の参考となる。</p> <p>山麓保全のための基金を実施しており、多くの基金が集まっている点は参考になる。生駒市でも導入すべきではないか。</p> <p>市街地の緑の保全を巡る市民相互の対立に、行政がどうかかわっていくか、参考になる。</p>
委員の意見等	<p>市の面積の半分が箕面国定公園という環境に恵まれてはいるが市民の熱意が箕面市の“みどり”を守っている。NPO、ボランティア団体が行政と協働して市域の環境保全に取り組んでいるが、それを支えているのはアダプト制度であり、自然緑地等指定制度である。本市もアダプト制度を取り入れ市民との協働を推進すべきと考える。</p> <p>箕面市のアダプト制度は、活動に必要な資材や花苗などを支給したり、アダプト活動をしている旨を記した看板の設置、また技術講習会等を行い、里親の活動を市は支援している。(アダプト団体＝現在130団体：4年で10倍に増加) この制度は、ボランティアをしてみたいという人の活動のきっかけづくりにもなると考える。</p> <p>「森の音楽祭」など、緑を実感でき、それでいて経費がかからないという、よく考えられたイベントを行っている点、及び、それを緑の保全の取り組みの宣伝・組織化に活用している点など、一つ一つの取り組みをバラバラなものにせず、相互に関連させている点、学ぶべき点が多かった。</p> <p>ボランティア団体の豊富さに驚いた。と同時に、そういったところでも人材育成の困難さを実感しているところに、この問題への取り組みの困難さがあるのだろう。</p>